

第6章 肝炎ウイルス検査の状況

1 肝炎ウイルス検査の認知度と受診の有無

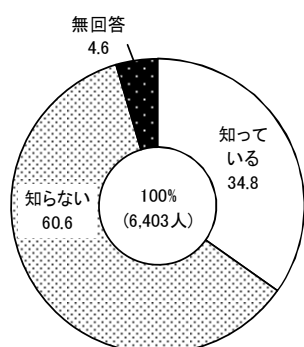
区市町村や保健所で、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスへの感染の有無を調べる肝炎ウイルス検査が行われていることを知っているか聞いたところ、「知っている」割合が34.8%、「知らない」が60.6%であった。(図Ⅱ-6-1)

また、以下の項目ごとに肝炎ウイルス検査を受けたことがあるか聞いたところ、「手術前の検査・妊娠出産時の検査・内視鏡検査前」に受けたことがある割合が最も高く8.1%であった。(図Ⅱ-6-2)

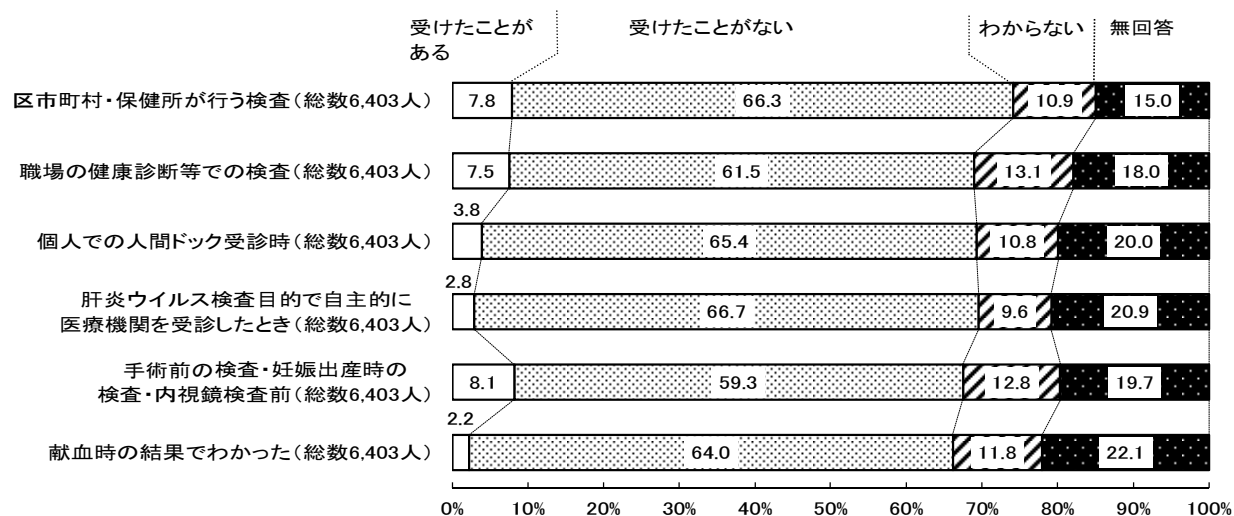
問 あなたは、区市町村や保健所で肝炎ウイルス検査が行われていることを知っていますか。

問 あなたは、肝炎ウイルスの感染に関する検査を受けたことがありますか。以下の項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。

図Ⅱ-6-1 肝炎ウイルス検査の認知度



図Ⅱ-6-2 肝炎ウイルス検査の受診の有無



<参考>

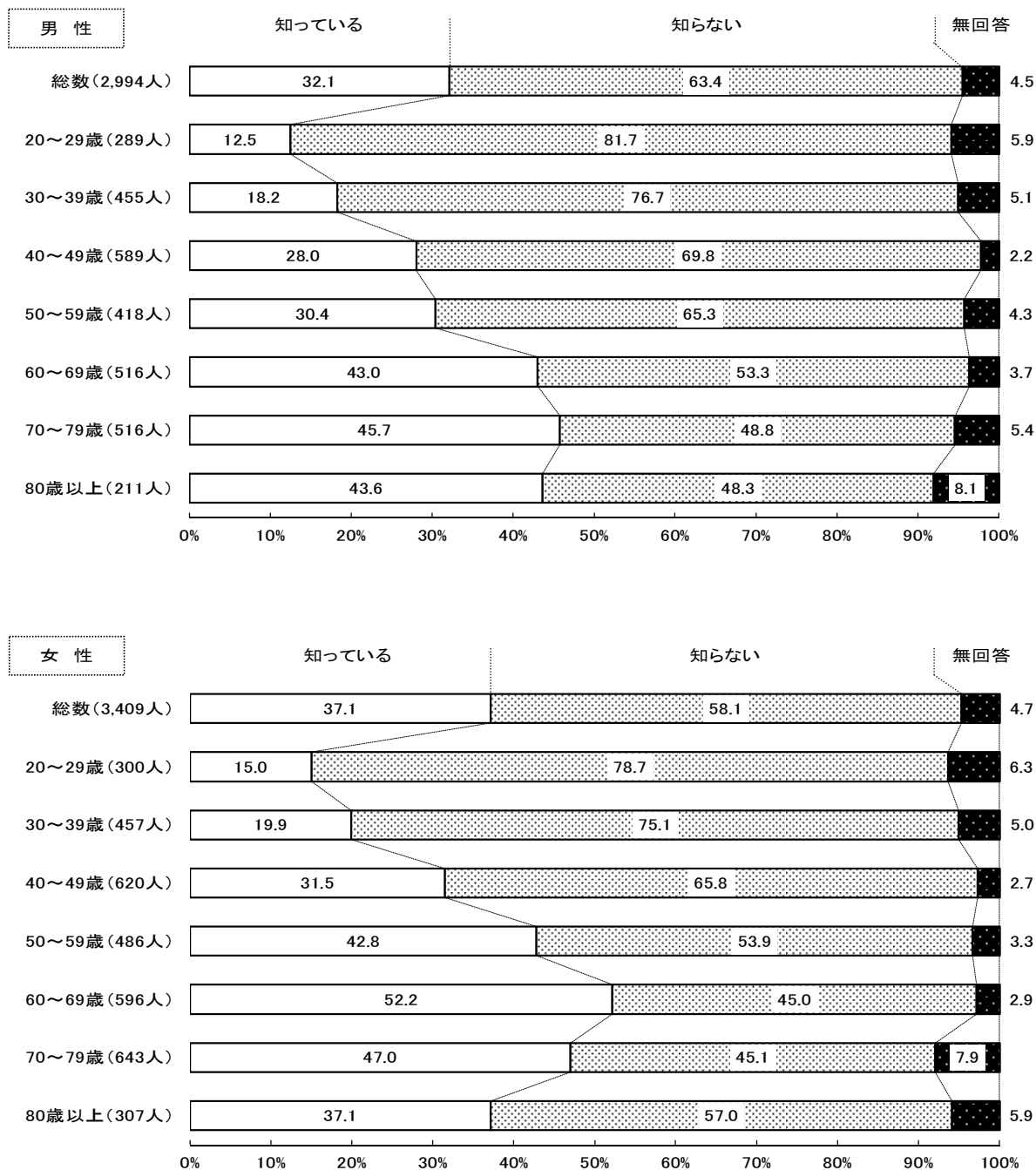
上記のいずれかの項目で肝炎ウイルス検査を受けたことがあると回答した割合は、26.3%となっている。

(1) 肝炎ウイルス検査の認知度－性・年齢階級別

「知っている」人の割合は、男性より女性の方が高い

肝炎ウイルス検査の認知度について、性・年齢階級別にみると、「知っている」人の割合は、男性32.1%、女性37.1%で、女性の方が5ポイント高くなっている。男性は70代、女性は60代が最も高く、45.7%、52.2%となっている。(図Ⅱ-6-3)

図Ⅱ-6-3 肝炎ウイルス検査の認知度－性・年齢階級別

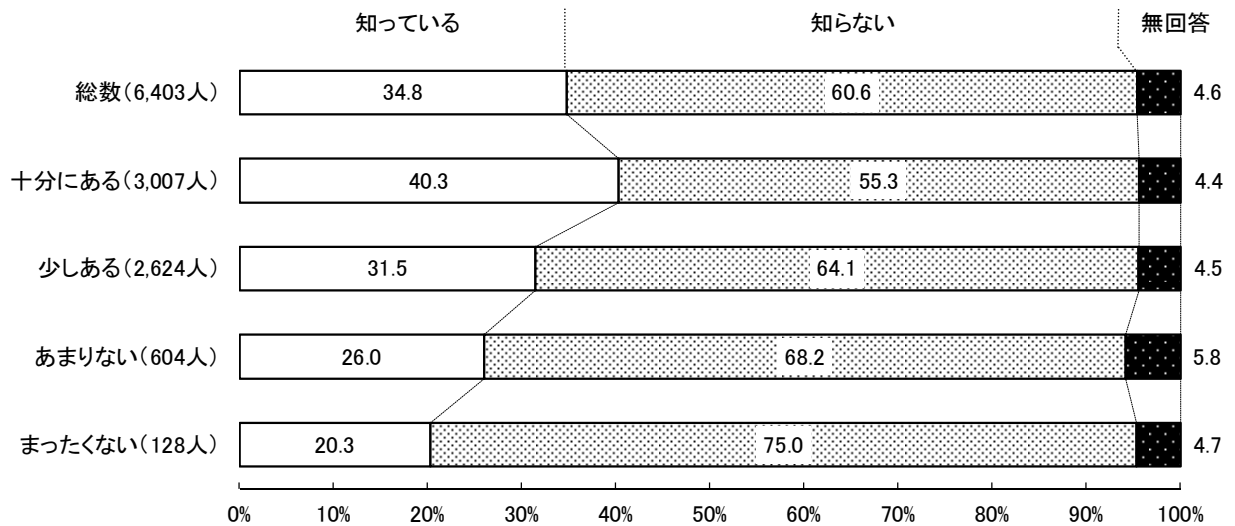


(2) 肝炎ウイルス検査の認知度－食生活・生活習慣改善意欲別

食生活・生活習慣改善意欲が十分にある人は、肝炎ウイルス検査を「知っている」人の割合が高い

肝炎ウイルス検査の認知度を食生活・生活習慣改善意欲別にみると、食生活・生活習慣改善意欲が十分にある人は、「知っている」割合が40.3%と最も高かった。(図Ⅱ-6-4)

図Ⅱ-6-4 肝炎ウイルス検査の認知度－食生活・生活習慣改善意欲別



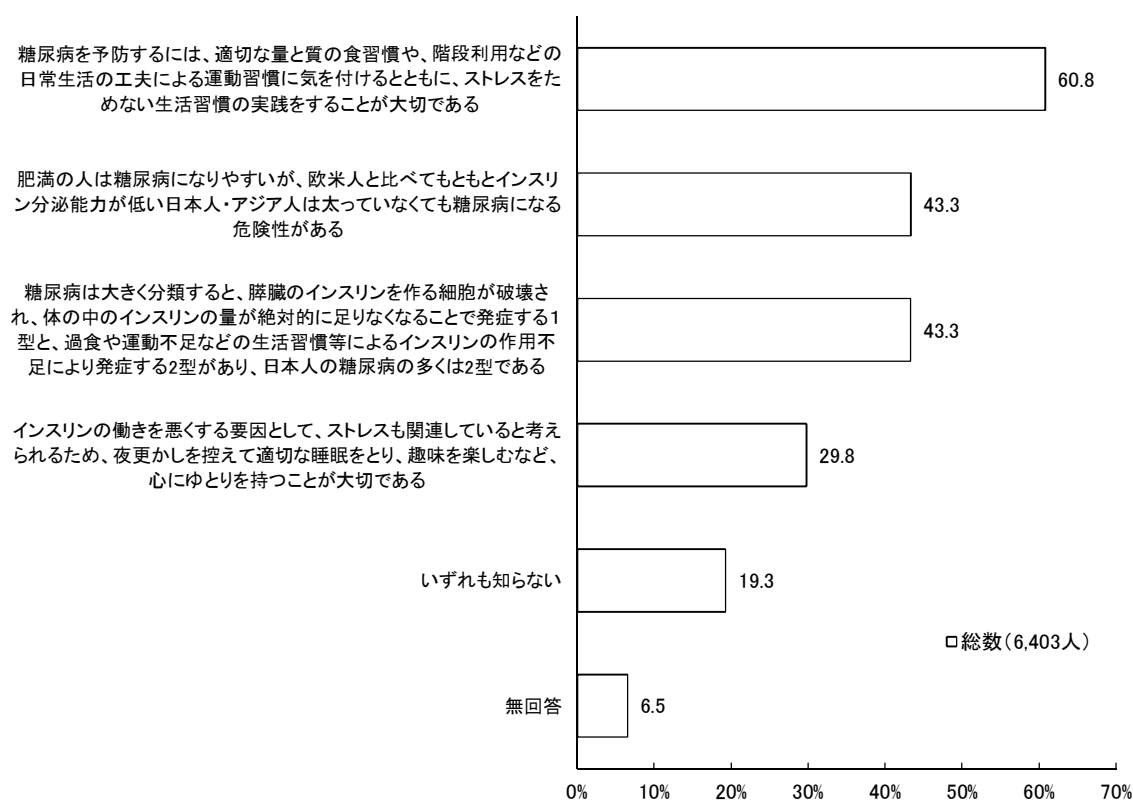
第7章 糖尿病

1 生活習慣改善による発症予防について知っていること[複数回答]

生活習慣の改善による発症予防について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、知っている割合で最も高いのは「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」で60.8%となっている。(図Ⅱ-7-1)

問 糖尿病は、生活習慣の改善による発症予防が大切ですが、あなたは、以下の内容を知っていましたか。

図Ⅱ-7-1 生活習慣改善による発症予防について知っていること[複数回答]



(1) 生活習慣改善による発症予防について知っていること[複数回答]一性・年齢階級別

男女とも「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」ことを知っている割合が最も高い

生活習慣改善による発症予防について、性・年齢階級別にみると、男女とも「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」ことを知っている割合が、それぞれ 56.7%、64.4%と最も高くなっている。

一方で、「いずれも知らない」の割合は、20代男性が最も高く、36.0%となっている。(表Ⅱ-7-1)

表Ⅱ-7-1 生活習慣改善による発症予防について知っていること[複数回答]

一性・年齢階級別

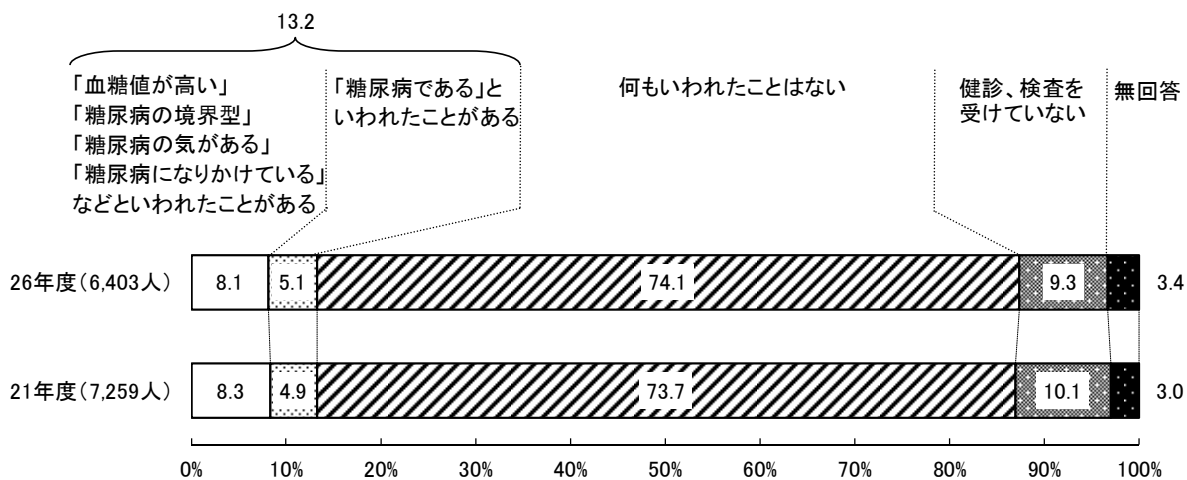
	総 数	く は 2 型 で あ る	足 不 に よ り な り な い 発 症 の 生 活 こ と を 改 善 す る こ と が あ り よ う す い 日 本 人 の 糖 尿 病 の 発 症 機 構 に 関 心 を も つ て い る こ と が あ り よ う す い	的 に 足 糖 尿 病 は 大 き く な る こ と を 防 ぐ す る こ と が あ り よ う す い	糖 尿 病 の 発 症 機 構 に 関 心 を も つ て い る こ と が あ り よ う す い	人 も 太 っ て い る こ と が あ り よ う す い	肥 満 の 人 は 糖 尿 病 の 発 症 機 構 に 関 心 を も つ て い る こ と が あ り よ う す い	実 を 付 け る こ と が あ り よ う す い	階 段 利 用 を す る こ と が あ り よ う す い	糖 尿 病 を 予 防 す る こ と が あ り よ う す い	り て も 適 切 な 睡 眠 を と る こ と が あ り よ う す い	い ず れ も 知 ら な い	無 回 答
総数	100.0 (6,403)	43.3	43.3	60.8	29.8	19.3	6.5						
男	100.0 (2,994)	39.3	41.2	<u>56.7</u>	27.8	22.7	6.5						
20～29歳	100.0 (289)	24.6	33.2	40.5	18.0	<u>36.0</u>	7.6						
30～39歳	100.0 (455)	31.9	34.1	47.5	20.0	30.3	6.4						
40～49歳	100.0 (589)	36.7	41.6	55.3	26.1	25.0	5.1						
50～59歳	100.0 (418)	41.4	44.5	59.6	29.2	19.1	5.5						
60～69歳	100.0 (516)	45.7	44.6	64.1	32.4	19.6	4.1						
70～79歳	100.0 (516)	47.7	46.3	66.7	34.3	13.2	9.3						
80歳以上	100.0 (211)	42.7	39.3	54.0	32.7	19.9	10.9						
女	100.0 (3,409)	46.8	45.2	<u>64.4</u>	31.5	16.3	6.5						
20～29歳	100.0 (300)	30.3	39.7	53.0	23.3	27.0	6.7						
30～39歳	100.0 (457)	42.5	40.3	56.9	24.5	24.1	5.7						
40～49歳	100.0 (620)	48.5	45.5	64.4	26.3	17.1	3.5						
50～59歳	100.0 (486)	54.9	51.0	70.8	34.0	11.5	2.9						
60～69歳	100.0 (596)	53.9	51.0	74.0	36.6	8.4	4.9						
70～79歳	100.0 (643)	51.0	48.1	69.8	41.4	10.0	10.3						
80歳以上	100.0 (307)	30.3	30.6	46.6	25.7	28.3	14.7						

2 糖尿病り患状況

健診等の結果、糖尿病といわれたことがあるか聞いたところ、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がする』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」割合が8.1%、「『糖尿病である』といわれたことがある」が5.1%であった。それ以外は「何もいわれたことはない」が大部分を占めており74.1%となっている。(図Ⅱ-7-2)

問 あなたは、健診等の検査の結果、糖尿病といわれたことがありますか。

図Ⅱ-7-2 糖尿病り患状況

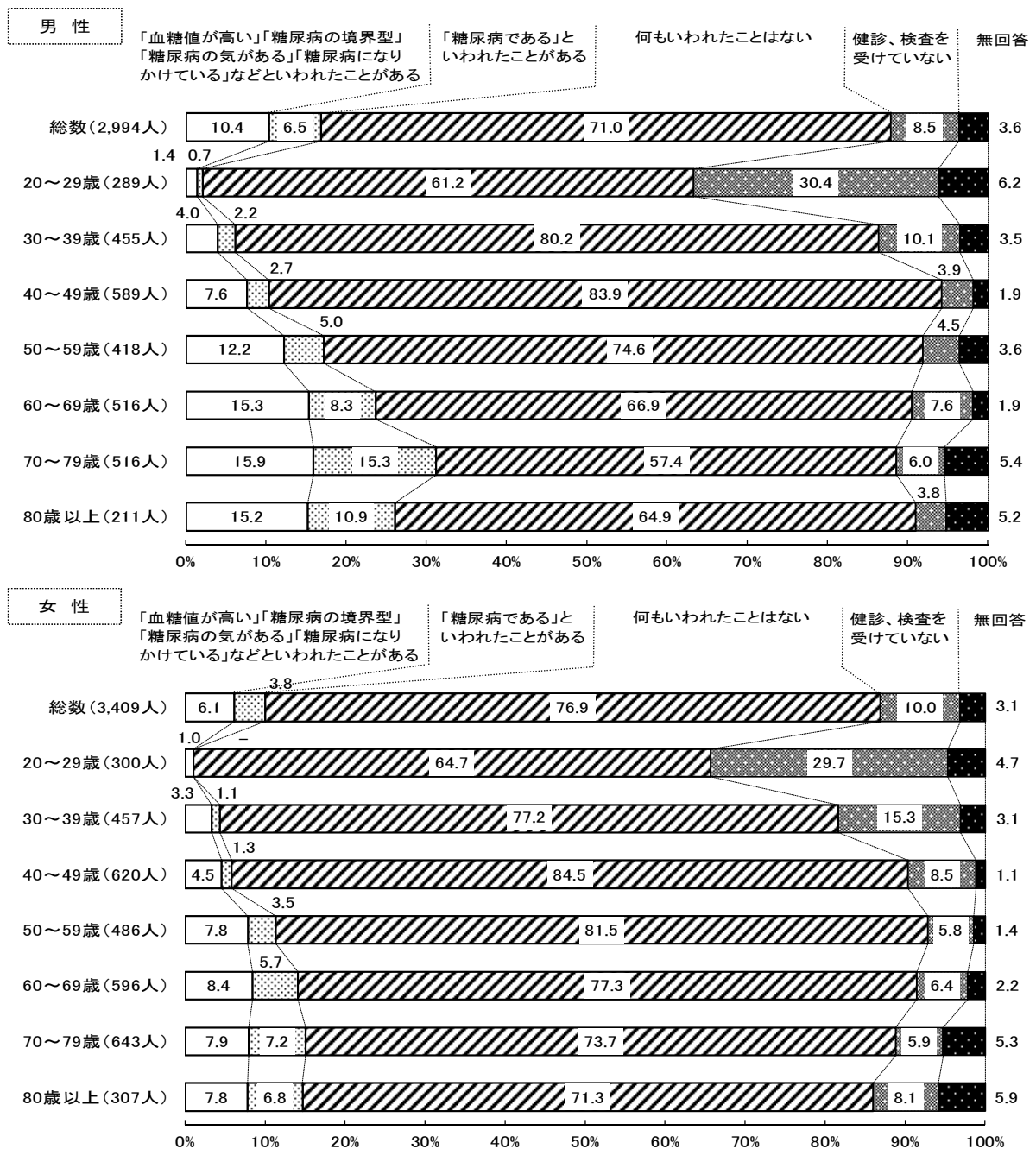


(1) 糖尿病り患状況一性・年齢階級別

「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がする』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」、「『糖尿病である』といわれたことがある」割合は、いずれも女性より男性の方が高い

糖尿病り患状況を性・年齢階級別にみると、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がする』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」は、男性10.4%、女性6.1%、「『糖尿病である』といわれたことがある」は、男性6.5%、女性3.8%と、いずれも男性の方が高くなっている。(図Ⅱ-7-3)

図Ⅱ-7-3 糖尿病り患状況一性・年齢階級別



3 糖尿病の治療の有無と治療内容[複数回答]

『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などといわれたことがある」または『糖尿病である』といわれたことがある」と答えた人(845人)に、治療を受けたことがあるかを聞いたところ、「現在、受けている」割合は、46.4%であった。

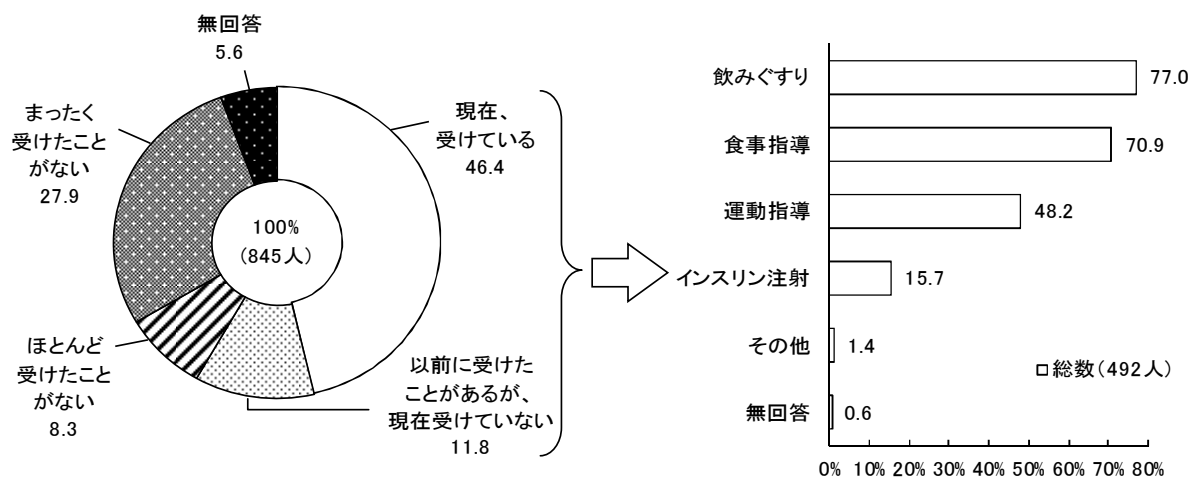
一方で、「以前に受けたことがあるが、現在受けていない」(11.8%)、「ほとんど受けたことがない」(8.3%)、「まったく受けたことがない」(27.9%)を合わせた「現在、治療を受けていない」割合は、48.0%であった。

また、「現在、受けている」または「以前に受けたことがあるが、現在受けていない」と答えた人(492人)に治療(していた)の内容を聞いたところ、「飲みぐすり」が77.0%で最も高く、次いで「食事指導」が70.9%、「運動指導」が48.2%となっている。(図Ⅱ-7-4)

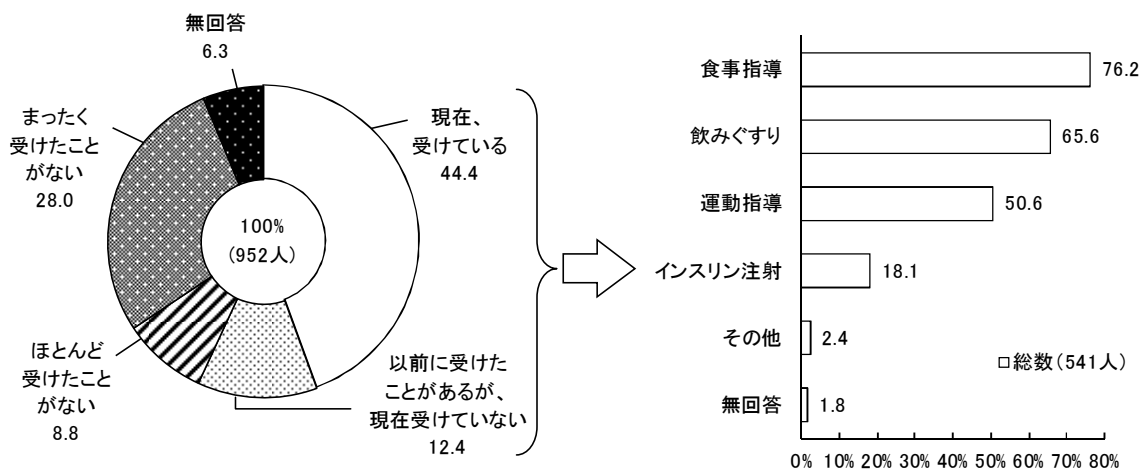
問 糖尿病の治療を受けましたことがありますか。

問 治療の内容はどのようなものでしたか。

図Ⅱ-7-4 糖尿病の治療の有無と治療内容[複数回答]



21年度



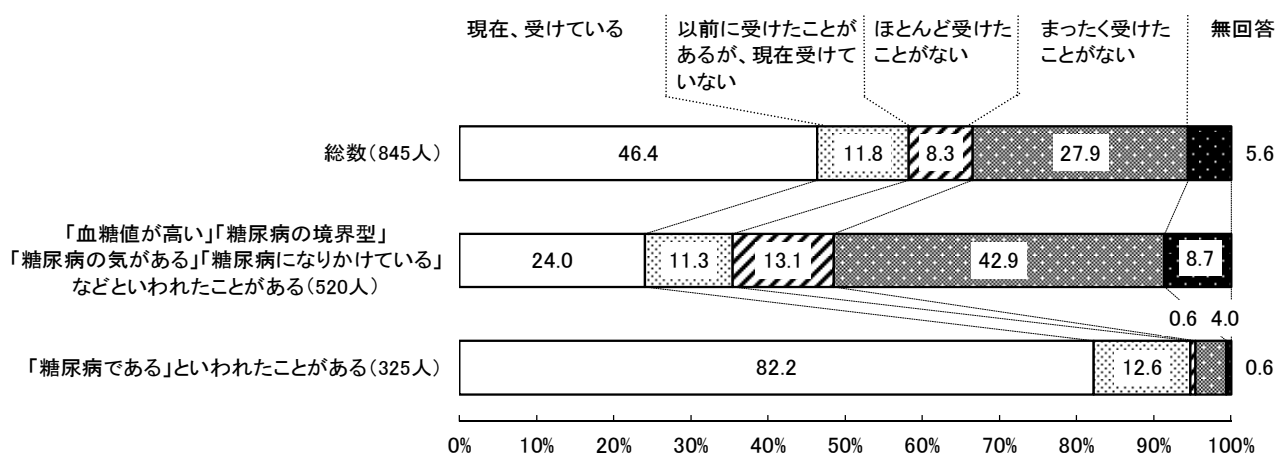
(1) 糖尿病の治療の有無－糖尿病り患状況別

『糖尿病である』といわれたことがある人は、糖尿病の治療を「現在、受けている」割合が8割

糖尿病の治療の有無について、糖尿病り患状況別にみると、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』」などといわれたことがある人は、「まったく受けたことがない」が最も高く42.9%となっている。

一方で、「糖尿病である」といわれたことがある人は、「現在、受けている」割合が82.2%と最も高くなっている。(図Ⅱ-7-5)

図Ⅱ-7-5 糖尿病の治療の有無－糖尿病り患状況別

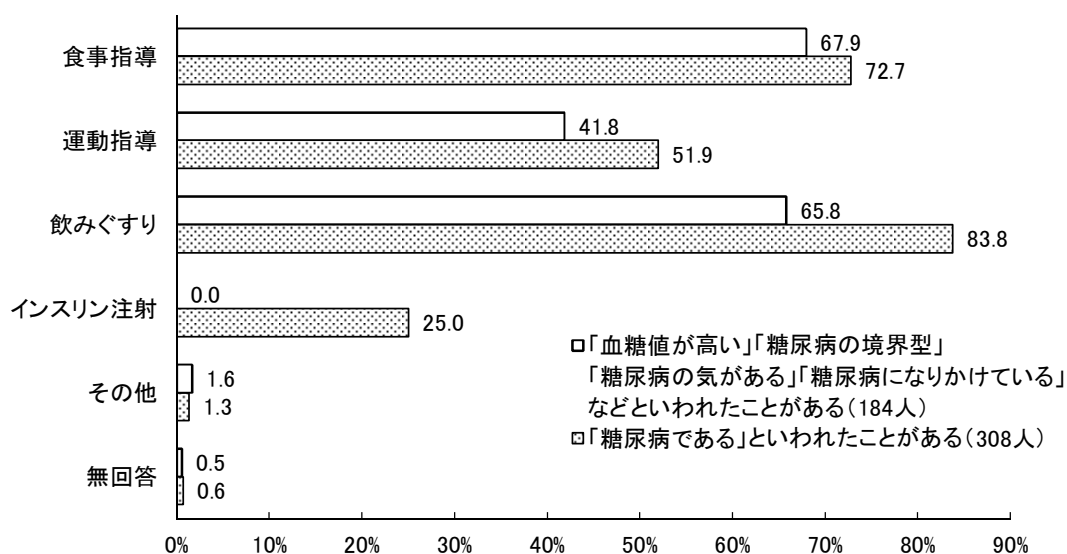


(2) 糖尿病の治療内容[複数回答]—糖尿病り患状況別

「糖尿病である」といわれたことがある人の治療内容は「飲みぐすり」の割合が最も高い

糖尿病の治療の内容について、糖尿病り患状況別にみると、「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』」などといわれたことがある人は「食事指導」の割合が最も高く67.9%、「糖尿病である」といわれたことがある人は「飲みぐすり」が最も高く83.8%となっている。(図Ⅱ-7-6)

図Ⅱ-7-6 糖尿病の治療内容[複数回答]—糖尿病り患状況別

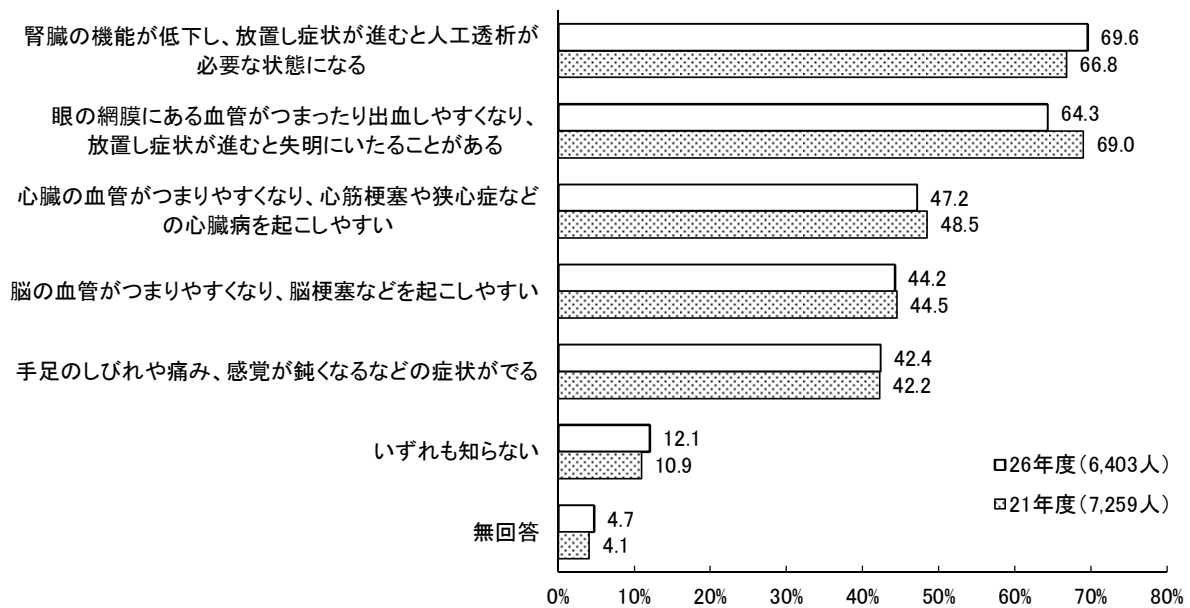


4 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]

糖尿病が悪化することで、以下のような状態になることを知っているか聞いたところ、「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」の割合が69.6%で最も高く、次いで、「眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、放置し症状が進むと失明にいたることがある」が64.3%となっている。(図Ⅱ-7-7)

問 糖尿病が悪化することで、次のような状態になることをご存知ですか。

図Ⅱ-7-7 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]



(1) 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]—性・年齢階級別

糖尿病の悪化で起こる状態について知っていることを性・年齢階級別にみると、男女とも、「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」が最も高く、それぞれ67.6%、71.3%となっている。

一方で、男女とも20代、80歳以上の女性は、「いずれも知らない」の割合が2割を超えている。(表Ⅱ-7-2)

表Ⅱ-7-2 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]—性・年齢階級別

	総 数	状 腎 症 状 が 進 む と 人 工 透 析 が 必 要 な	な 手 足 の し び れ や 痛 み 、 感 覚 が 鈍 く	進 出 血 の し や 膜 に く あ る 血 管 が つ ま つ た り	起 心 筋 の し や す い 狭 い 心 臓 の 病 を	脳 梗 塞 な ど が つ ま り し や す く な り	い ず れ も 知 ら な い	無 回 答
総数	100.0 (6,403)	69.6	42.4	64.3	47.2	44.2	12.1	4.7
男	100.0 (2,994)	<u>67.6</u>	40.5	60.1	46.4	43.8	13.7	4.7
20～29歳	100.0 (289)	47.8	35.3	29.8	34.6	33.9	<u>29.1</u>	7.6
30～39歳	100.0 (455)	65.7	41.3	51.9	40.9	39.6	17.4	4.2
40～49歳	100.0 (589)	71.5	42.3	59.6	44.5	42.1	13.6	2.5
50～59歳	100.0 (418)	68.4	42.8	66.5	46.7	45.0	11.5	4.8
60～69歳	100.0 (516)	72.7	42.1	71.7	52.9	49.6	9.3	3.3
70～79歳	100.0 (516)	70.3	39.5	68.4	53.9	49.8	8.7	5.6
80歳以上	100.0 (211)	66.8	35.1	59.2	45.0	40.3	12.8	9.5
女	100.0 (3,409)	<u>71.3</u>	44.0	68.0	47.8	44.6	10.6	4.7
20～29歳	100.0 (300)	54.3	34.3	35.0	44.0	40.3	<u>23.3</u>	6.0
30～39歳	100.0 (457)	69.4	42.5	59.5	42.2	37.9	12.0	4.2
40～49歳	100.0 (620)	72.6	45.5	71.5	45.0	42.1	9.4	2.7
50～59歳	100.0 (486)	80.0	53.3	79.0	53.5	47.9	4.7	2.7
60～69歳	100.0 (596)	76.7	48.2	81.2	52.7	48.8	6.0	2.3
70～79歳	100.0 (643)	75.0	42.5	72.5	53.0	51.5	7.5	8.1
80歳以上	100.0 (307)	56.4	32.9	53.7	36.5	36.2	<u>23.1</u>	8.5
21年度	100.0 (7,259)	66.8	42.2	69.0	48.5	44.5	10.9	4.1

(2) 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]—糖尿病り患状況別

「糖尿病である」といわれたことがある人は、いずれの項目も知っている割合が高い

糖尿病の悪化で起こる状態について知っていることを糖尿病り患状況別にみると、「糖尿病である」といわれたことがある人は、「いずれも知らない」を除くすべての項目において、割合が最も高くなっている。(表Ⅱ-7-3)

表Ⅱ-7-3 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度[複数回答]—糖尿病り患状況別

	総 数	腎臓の機能が低下し、人工透析が必要な状態になる	手足のしびれや痛み、感覚が鈍くなるなどの症状	目の網膜に異常がある、放置すると失明する	起心筋梗塞や狭心症などの心臓病を、起こしやすくなる	脳梗塞などが起こりやすくなる	いずれも知らない	無 回 答
総数	100.0 (6,403)	69.6	42.4	64.3	47.2	44.2	12.1	4.7
「血糖値が高い」「糖尿病の境界型」「糖尿病の気がある」「糖尿病になりかけている」などといわれたことがある	100.0 (520)	76.5	52.5	76.7	60.4	58.7	6.0	1.7
「糖尿病である」といわれたことがある	100.0 (325)	<u>86.2</u>	<u>71.7</u>	<u>89.2</u>	<u>74.8</u>	<u>73.5</u>	3.4	1.5
何もいわれたことはない	100.0 (4,747)	71.4	41.9	65.7	46.9	43.8	12.2	2.4
健診、検査を受けていない	100.0 (595)	58.3	33.3	45.9	35.0	31.4	23.7	2.4
21年度	100.0 (7,259)	66.8	42.2	69.0	48.5	44.5	10.9	4.1

第8章 結核

1 胸のレントゲン検査の受診の有無と受診しなかった理由〔複数回答〕

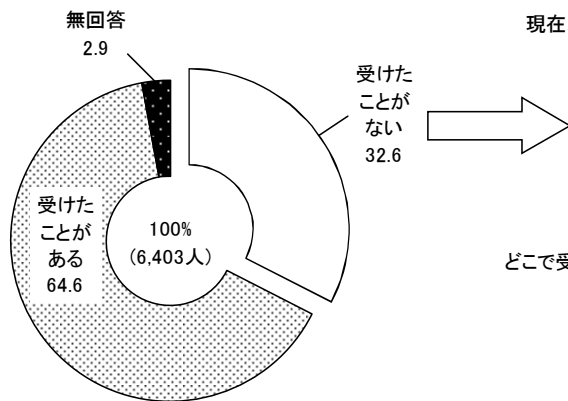
この1年以内に胸のレントゲン検査を受けたことがあるか聞いたところ、「受けたことがある」の割合が64.6%、「受けたことがない」が32.6%であった。(図Ⅱ-8-1)

「受けたことがない」人(2,086人)に受診しなかった理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が最も高く50.1%、次いで「受ける機会がないから」が31.4%と続いた。(図Ⅱ-8-2)

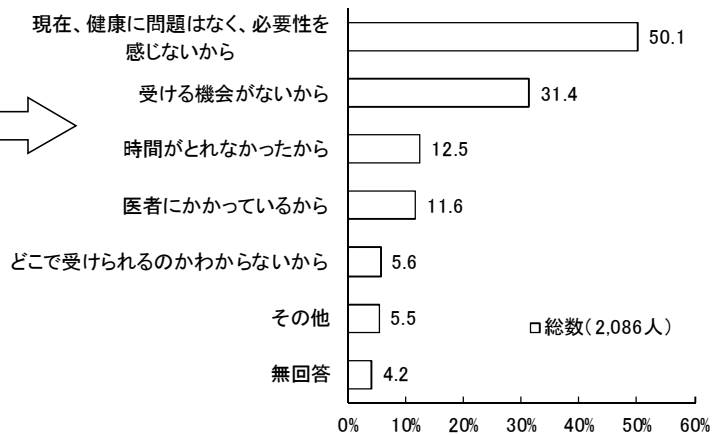
問 あなたは、この1年以内に胸のレントゲン検査を受けたことがありますか。

問 胸のレントゲン検査を受けなかったのはなぜですか。

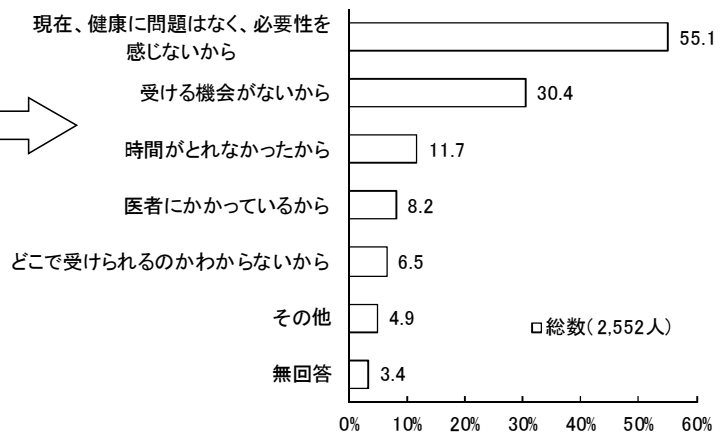
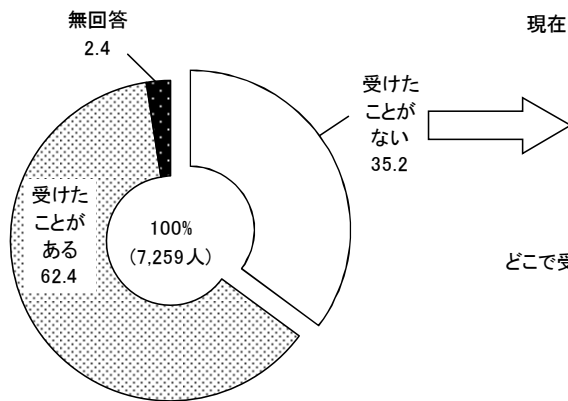
図Ⅱ-8-1 胸のレントゲン検査の受診の有無



図Ⅱ8-2 胸のレントゲン検査を受診しなかった理由〔複数回答〕



21年度



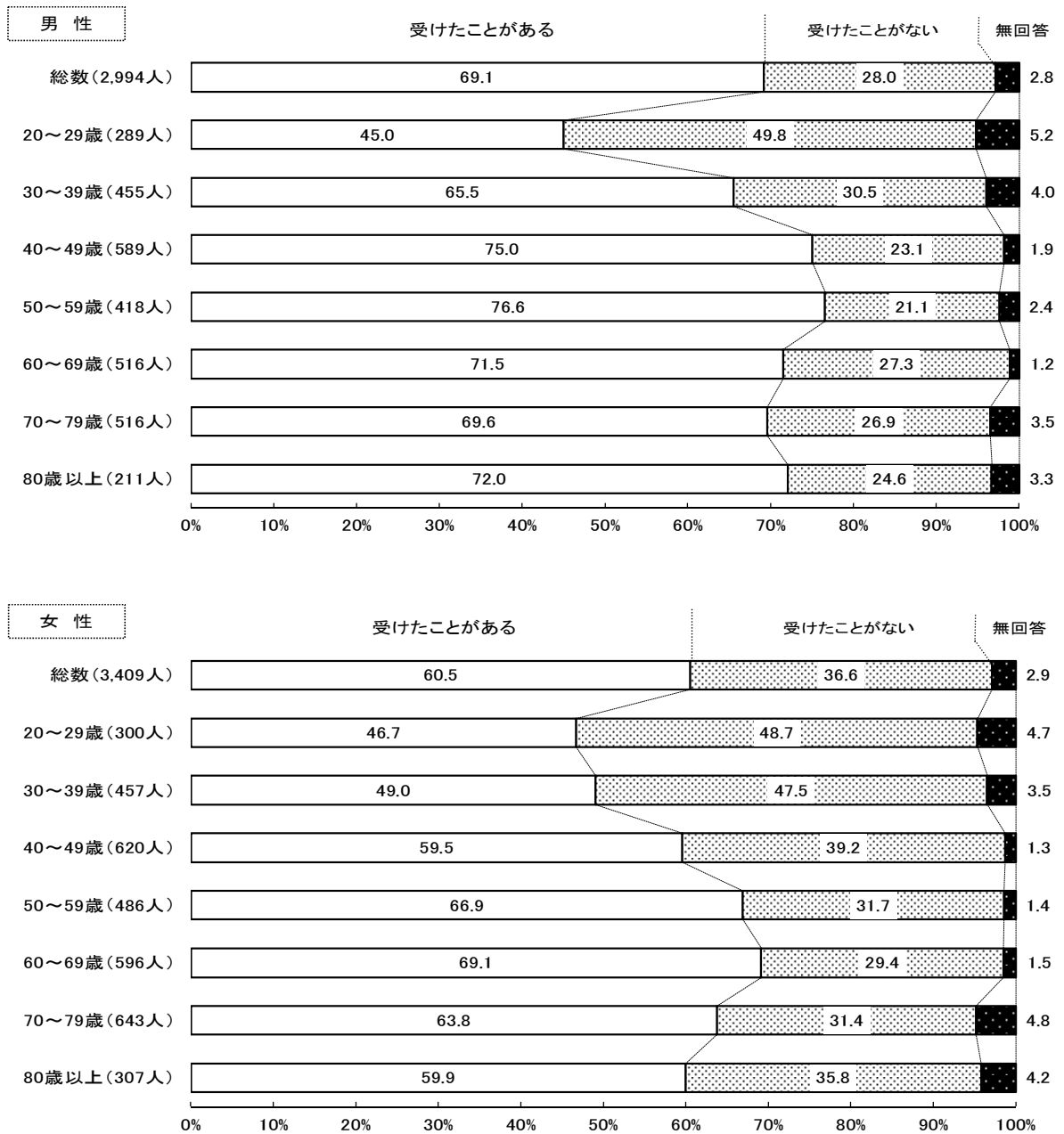
(1) 胸のレントゲン検査の受診の有無一性・年齢階級別

胸のレントゲン検査を受診した割合は、女性より男性の方が高い

胸のレントゲン検査の受診の有無について、性・年齢階級別にみると、「受けたことがある」割合は、男性 69.1%、女性 60.5%と男性の方が 8.6 ポイント高くなっている。

一方、「受けたことがない」の割合が、男性では 20 代(49.8%)、女性では 20 代 (48.7%)、30 代(47.5%)が、約 5 割となっている。(図Ⅱ-8-3)

図Ⅱ-8-3 胸のレントゲン検査の受診の有無一性・年齢階級別



(2) 胸のレントゲン検査の受診の有無－就業状況別

主に仕事をしている人は、胸のレントゲン検査を受診した割合が7割

胸のレントゲン検査の受診の有無について、就業状況別にみると、「受けたことがある」割合が最も高いのは、主に仕事をしている人で71.1%となっている。(表Ⅱ-8-1)

表Ⅱ-8-1 胸のレントゲン検査の受診の有無－就業状況別

	総 数	受 け た こ と が あ る	受 け た こ と が な い	無 回 答
総数	100.0 (6,403)	64.6	32.6	2.9
労働力人口	100.0 (3,887)	68.4	29.0	2.6
就業者	100.0 (3,831)	69.0	28.4	2.6
主に仕事	100.0 (3,119)	<u>71.1</u>	26.2	2.7
家事などのかたわらに仕事	100.0 (573)	60.7	37.7	1.6
通学のかたわらに仕事	100.0 (50)	40.0	54.0	6.0
その他	100.0 (89)	64.0	31.5	4.5
仕事を探していた	100.0 (56)	28.6	66.1	5.4
非労働力人口	100.0 (2,488)	58.7	38.1	3.2
家事(専業)	100.0 (911)	53.3	43.4	3.3
通学のみ	100.0 (97)	44.3	52.6	3.1
その他(幼児・高齢・病気等)	100.0 (1,480)	<u>62.9</u>	34.0	3.1
21年度	100.0 (7,259)	62.4	35.2	2.4

(3) 胸のレントゲン検査を受診しなかった理由[複数回答]—性・年齢階級別

男女とも「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が最も高い

胸のレントゲン検査を受診しなかった理由を性・年齢階級別にみると、男女とも「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が、それぞれ52.0%、48.8%と最も高くなっている。

また、「受ける機会がないから」の割合は、男性29.3%、女性32.8%で、女性の方が3.5ポイント高くなっている。(表Ⅱ-8-2)

表Ⅱ-8-2 胸のレントゲン検査を受診しなかった理由[複数回答]—性・年齢階級別

	総 数	な な か ら	現 在 、 健 康 に 問 題 は な い か ら	の ど こ か で か ら 受 け ら れ る か ら	か ら 受 け る 機 会 が な い	か ら 時 間 が と れ な か つ た	か ら 医 者 に か か つ て い る	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (2,086)	50.1	5.6	31.4	12.5	11.6	5.5	4.2	
男	100.0 (839)	<u>52.0</u>	5.2	<u>29.3</u>	13.0	12.6	4.4	4.2	
20～29歳	100.0 (144)	56.9	8.3	43.8	1.4	1.4	2.1	4.9	
30～39歳	100.0 (139)	49.6	10.1	43.2	23.0	2.2	1.4	3.6	
40～49歳	100.0 (136)	39.7	5.9	38.2	22.8	6.6	6.6	3.7	
50～59歳	100.0 (88)	46.6	2.3	21.6	27.3	12.5	3.4	3.4	
60～69歳	100.0 (141)	56.7	4.3	21.3	9.9	18.4	5.7	2.8	
70～79歳	100.0 (139)	61.9	1.4	12.9	4.3	24.5	7.2	4.3	
80歳以上	100.0 (52)	46.2	-	7.7	-	40.4	3.8	9.6	
女	100.0 (1,247)	<u>48.8</u>	5.9	<u>32.8</u>	12.1	11.0	6.2	4.2	
20～29歳	100.0 (146)	45.2	12.3	52.7	7.5	-	3.4	5.5	
30～39歳	100.0 (217)	39.6	7.8	51.6	12.0	1.8	10.1	5.1	
40～49歳	100.0 (243)	46.1	8.2	40.7	21.4	4.1	4.1	3.3	
50～59歳	100.0 (154)	55.8	1.3	28.6	17.5	7.8	7.8	1.9	
60～69歳	100.0 (175)	48.6	2.9	21.7	12.6	18.3	7.4	4.6	
70～79歳	100.0 (202)	58.4	3.5	12.4	5.4	23.3	4.5	3.5	
80歳以上	100.0 (110)	50.9	3.6	12.7	1.8	29.1	5.5	6.4	
21年度	100.0 (2,552)	55.1	6.5	30.4	11.7	8.2	4.9	3.4	

注) その他の意見(計114件)としてあげられた主なものは、以下のとおりである。

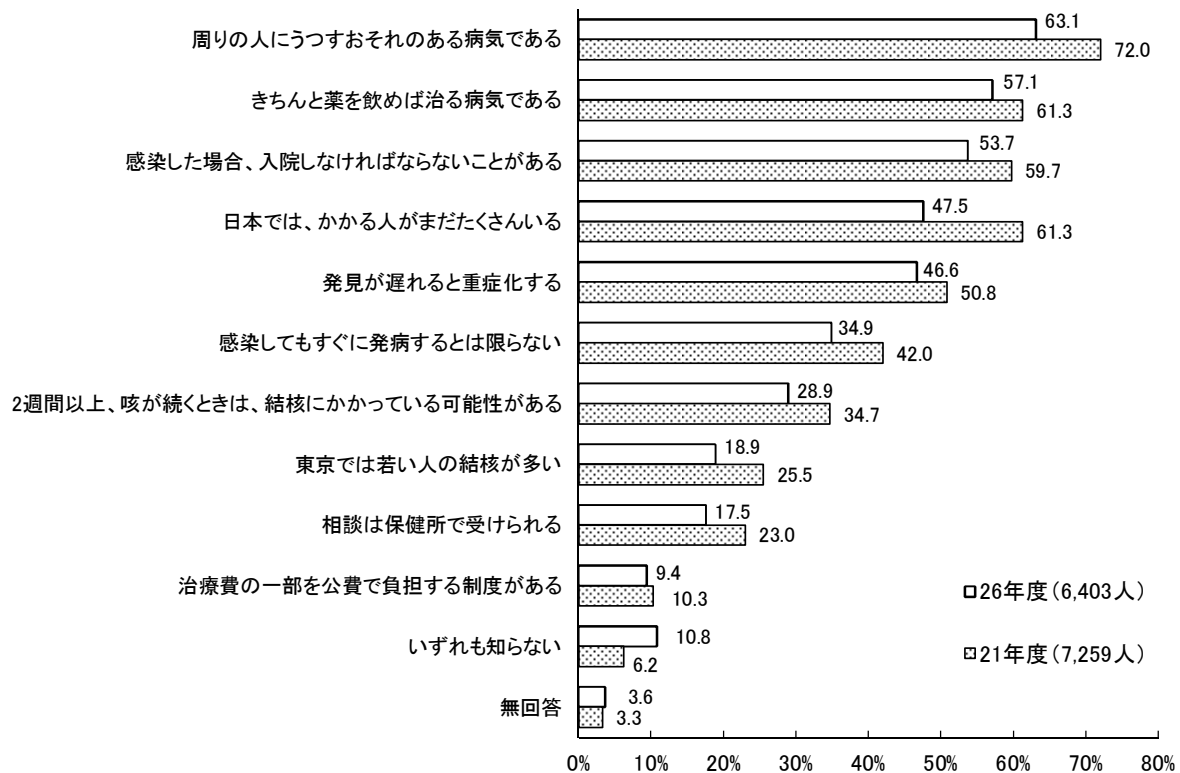
- 妊娠中(23件)
- 以前に受けた(13件)
- 被ばくしたくない(7件)

2 結核に関する知識の認知度[複数回答]

結核について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、知っている割合で最も高いのは「周りの人にうつすおそれのある病気である」で63.1%、次いで「きちんと薬を飲めば治る病気である」が57.1%、「感染した場合、入院しなければならないことがある」が53.7%と続いた。
(図Ⅱ-8-4)

問 あなたは、結核について次のようなことをご存知ですか。

図Ⅱ-8-4 結核に関する知識の認知度[複数回答]



(1) 結核に関する知識の認知度[複数回答]一性・年齢階級別

男女とも「周りの人にうつすおそれのある病気である」ことを知っている割合が最も高い

結核に関する知識の認知度を性・年齢階級別にみると、男女とも「周りの人にうつすおそれのある病気である」ことを知っている割合が、それぞれ 57.6%、67.9%と最も高くなっている。

男性の20代は、「いずれも知らない」の割合が28.0%と、総数の割合(10.8%)より17.2ポイント高くなっている。(表Ⅱ-8-3)

表Ⅱ-8-3 結核に関する知識の認知度[複数回答]一性・年齢階級別

	総 数	まだ日本 だけでは たくさん かかる 人が	感染して は限らず に発病 する	きちんと 薬を飲め ば治る 病気である	発見が遅 れると重 症化する	周りの人 にうつす おそれ のある病 気である	2週間以 上、咳が 続くと結 核になる 可能性がある	多 東 京 い では 若い 人の 結核 が	相 談 は 保 健 所 で 受 け ら れる	治 療 費 の 一 部 を 公 費 で 負 担 す る 制 度 が あ る	あ け ら れ ば な ら な い こ と が あ る	感 染 し た 場 合 、 入 院 し な い	い ず れ も 知 ら な い	無 回 答
総数	100.0 (6,403)	47.5	34.9	57.1	46.6	63.1	28.9	18.9	17.5	9.4	53.7	<u>10.8</u>	3.6	
男	100.0 (2,994)	44.9	31.7	52.6	45.7	<u>57.6</u>	23.6	15.3	16.1	9.5	48.6	14.0	3.8	
20～29歳	100.0 (289)	30.8	17.6	32.2	29.8	39.1	17.6	8.0	5.2	4.8	25.3	<u>28.0</u>	8.0	
30～39歳	100.0 (455)	34.1	20.9	42.9	34.9	45.3	20.4	11.6	8.4	5.3	36.3	19.3	5.5	
40～49歳	100.0 (589)	44.1	25.8	50.1	47.7	55.3	23.9	15.1	12.6	7.3	44.7	17.3	2.7	
50～59歳	100.0 (418)	44.3	31.6	59.1	46.2	58.1	22.7	14.6	12.9	8.1	50.7	12.9	3.1	
60～69歳	100.0 (516)	51.2	38.8	61.8	51.7	64.9	23.8	20.5	19.8	13.6	62.8	9.1	1.7	
70～79歳	100.0 (516)	54.1	42.8	58.1	52.5	69.6	27.5	18.4	26.9	13.0	60.1	6.4	3.1	
80歳以上	100.0 (211)	52.6	46.0	60.2	53.1	68.2	28.9	15.2	28.0	15.2	51.2	7.1	6.2	
女	100.0 (3,409)	49.9	37.7	61.0	47.4	<u>67.9</u>	33.6	21.9	18.8	9.3	58.2	8.0	3.5	
20～29歳	100.0 (300)	31.7	21.3	39.3	32.0	50.3	26.3	13.0	7.7	6.0	41.3	19.7	5.3	
30～39歳	100.0 (457)	42.0	23.0	48.6	42.0	62.1	31.1	16.4	11.6	8.5	48.1	12.3	4.4	
40～49歳	100.0 (620)	49.8	32.9	61.8	45.3	66.1	39.7	19.2	11.8	7.1	54.5	9.4	2.6	
50～59歳	100.0 (486)	57.8	45.3	68.7	52.3	75.9	41.4	28.0	20.0	10.7	67.7	3.7	1.6	
60～69歳	100.0 (596)	55.0	44.8	72.7	54.2	73.5	34.2	29.2	23.7	10.1	70.8	3.7	1.7	
70～79歳	100.0 (643)	57.1	48.2	66.1	53.8	72.6	31.7	24.3	30.0	11.4	62.2	3.1	5.0	
80歳以上	100.0 (307)	42.0	37.1	53.1	40.7	63.5	22.1	16.0	20.2	9.8	48.9	12.7	5.2	
21年度	100.0 (7,259)	61.3	42.0	61.3	50.8	72.0	34.7	25.5	23.0	10.3	59.7	6.2	3.3	

(2) 結核に関する知識の認知度[複数回答]—胸のレントゲン検査の受診の有無別

レントゲン検査を受けた人は、いずれの項目も知っている割合が高い

結核に関する知識の認知度を胸のレントゲン検査の受診の有無別にみると、「いずれも知らない」を除くすべての項目において、受けたことがある人の方が、受けたことがない人に比べて、知っている割合が高くなっている。(表Ⅱ-8-4)

表Ⅱ-8-4 結核に関する知識の認知度[複数回答]—胸のレントゲン検査の受診の有無別

	総 数	た日本 くさん では、 かかる 人が まだ	と感 染し ても すぐ に発 病す る	病き ちん と薬 を飲 めば 治る	発見 が遅 れる と重 症化 する	周 りの 病 人 に うつ すお それ の	可 能 性 が あ る	2週 間 以上 、咳 が 続 く とき	多 東 京 では 若い 人の 結核 が	相 談 は 保 健 所 で 受 け ら れる	治 療 費 の 一 部 を 公 費 で 負 担 す る 制 度 が あ る	感 染 し た 場 合 、 入 院 し な け れ ば な ら な い こ と が あ る	い ず れ も 知 ら な い	無 回 答
総数	100.0 (6,403)	47.5	34.9	57.1	46.6	63.1	28.9	18.9	17.5	9.4	53.7	10.8	3.6	
受けたことがある	100.0 (4,134)	<u>52.6</u>	<u>38.9</u>	<u>62.0</u>	<u>51.5</u>	<u>67.8</u>	<u>31.3</u>	<u>20.7</u>	<u>20.2</u>	<u>10.7</u>	<u>58.1</u>	9.0	0.9	
受けたことがない	100.0 (2,086)	40.8	29.2	51.3	40.4	58.4	26.4	16.5	13.3	7.4	48.7	15.1	2.1	